



社団法人 志布志市社会福祉協議会

すなあい

第12号

平成19年12月25日発行

社会福祉法人
発行 志布志市社会福祉協議会
志布志市志布志町志布志3222-1 (志布志市健康ふれあいプラザ内)
TEL: 472-1800 FAX: 472-1593



有明町・岳野山にて

目次

- * 第2回志布志市社会福祉大会及びボランティアまつりを開催! P 2
- ・ ~第1部~志布志市社会福祉大会
- ・ ~第2部~ボランティアまつり P 6
- * 平成19年度志布志市金婚式開催
- * 障害者戸外ふれあいの一日 P 7
- * 平成19年度赤い羽根共同募金活動報告
- * 輪多市(私)のボランティア P 8
- ・ 松山地区より~松山中学校でほうき作り~
- ・ 有明地区より~絵手紙年賀状作り~
- ・ わたしのまちのボランティア

- * 施設紹介 P 10
- ・ 特別養護老人ホーム「小松の里」
- * 福祉事業紹介
- ・ 重度心身障害者医療費助成制度
- * お知らせ P 11
- ・ 宝寿園から
- ・ 朗読ボランティア「鈴」から
- ・ 曾於地区障害者相談支援センターから
- ・ 心配ごと相談日程
- * 寄附・義援金ありがとうございます P 12
- * 福祉コラム

住みやすい・やさしい・福祉の

まちづくりをめざして

「志のまち志布志市」

秋晴れの爽やかな十月二十七日の土曜日、第二回志布志市社会福祉大会及びボランティアまつりが、志布志市文化会館において志布志市、志布志市社会福祉協議会の主催により盛大に開催されました。

市民が福祉活動に参加し、それぞれの力を発揮しながら、可能な限り福祉課題を地域で解決できるように、志布志市の福祉向上を目指して、志布志市の福祉団体、関係機関が一堂に会し第二回志布志市社会福祉大会が開催されました。



表彰を受けられる恒吉頼藏さん

大会では、これまでの地域の福祉向上に貢献された方々や在宅において家族の介護に永年尽くされた方々のこれまでの功績やご苦労に対し十九名の方への表彰や第二回福祉作文・絵画コンクール、第一回ボランティア標語コンクールの入賞者の表彰式が行われました。表彰にあたり来賓を代表され鹿児島県議会中山信一議員、志布志市議会谷口松生議長から祝辞をいただき、日頃の労をねぎらわれました。その後、福祉作文最優秀作品の朗読が行われ、参加された方々は深い感銘を受けられている様子でした。

引き続き、記念講演では、京都大学非常勤講師で、医学博士の岡本香代子先生が「今日から始める若さと健康をつくるウォーキング」と題して、日常の何でもない歩き方を正しく歩くことで健康を保つことができ「大股で十分間、千歩を目標に歩いてください」などアドバイスされ、ウォーキングによる健康増進について講演されました。



被表彰者一同による記念撮影！



熱心に講演をされる岡本香代子氏

午前中は、式典一色でしたが、午
後からボランティアまつりを開催し、
ボランティアの日頃の活動、取り組
みの紹介など様々な形で行われまし
た。(詳細については、P6で紹介
していますのでご覧ください。)



謝辞を述べられる町田益範民生委員

被表彰者 (敬称略)

① 民生委員児童委員として、

八年以上その職務に従事
し、功績が顕著であつて、
現に在職しておられる方

- 坂ノ上 きよ子 (松山町)
- 飛松 真理子 (志布志町)
- 田原 作一 (志布志町)
- 松崎 三朗 (志布志町)
- 浜崎 修身 (志布志町)
- 閨野 節子 (志布志町)
- 木村 陽子 (志布志町)
- 町田 益範 (志布志町)
- 江藏 洋一 (志布志町)
- 田浦 安德 (志布志町)
- 西山 弘子 (志布志町)
- 池田 勝蔵 (志布志町)
- 八久保 八重子 (有明町)
- 久木井 洋子 (有明町)

② 五年以上にわたり、ねた

きり老人、重度心身障害
者(児)等を献身的に介護
しておられる方

- 西留 ヒサ子 (松山町)
- 新村 チリ (松山町)
- 永石 七生 (志布志町)
- 恒吉 頼藏 (志布志町)
- 川畑 菊夫 (有明町)

第二回福祉作文・絵画 コンクール入賞者 (敬称略)

○福祉作文の部

- 最優秀賞
・潤ヶ野小三年 新地 怜奈
「えがおが見たいから」
・松山中三年 上村 真由
「サマーボランティアを通して」
学校賞
・松山小学校・宇都中学校

○福祉絵画の部

- 最優秀賞
・香月小四年 横山翔太郎
「笑顔がきらり」
・志布志中三年 池田佳奈美
「大切な家族 大切な命」
学校賞
・尾野見小学校・志布志中学校
第一回志布志市ボランティア
標語コンクール入賞者 (敬称略)
最優秀賞
・今市 悦子
「世代を超えて 手をつなぎ
あう ボランティア」



作文朗読をされる
潤ヶ野小学校3年 新地怜奈さん

第2回 志布志市福祉絵画コンクール 最優秀賞作品紹介



志布志市立
志布志中学校 3年
池田 佳奈美
さん

福祉絵画コンクール 中学校の部
最優秀賞

「大切な家族 大切な命」



志布志市立
香月小学校 4年
横山 翔太郎
さん

福祉絵画コンクール 小学校の部
最優秀賞

「笑顔がきらり」

第2回志布志市

福祉作文コンクール

最優秀賞作品紹介

最優秀賞

小学校の部

えがおが見たいから



志布志市立
潤ヶ野小学校 三年
新地 怜 奈さん

「れいな、これをあらってき
て。」

母がわたしにさし出したのは、
ばあちゃんの入ればだった。き
たないからいやだなあと思った
わたしは、へんじをせず聞こえ
ないふりをした。すると、母は
だまって入ればをあらいに行っ
た。

ばあちゃんは、わたしが生ま
れる前に、のうこうそくでたお
れて体と思うように動かなくな
った。年ねん体は弱り、つえで
歩いていたらばあちゃんが車いす

生活になり、今では、ねたきり
になってしまい入院している。

「あいたよ。あいたよ。」
と、とこずれができていたがる
ばあちゃんの声は、病室の外ま
でひびいている。そんな時は、
「どこがいてとよ。ここか。」
とじいちゃんがやさしく体をさ
すり、こしの所にまくらを入れ
てあげると、ばあちゃんは、
「ありがとう。」

とうれしそうな顔をする。
今は、ねたきりになって思う
ように動けなくなったばあちゃ

んだけど、アルバムの中には、
今よりもずいぶん元気で、わた
しをだっこしてくれたり、ごは
んを食べさせてくれたり、三り
ん車をおしてくれたりしている
ばあちゃんのすがたがうつって
いて、やさしいばあちゃんのえ
がおが、ぎっしりつまっている。
きつと、わたしが赤ちゃんのこ
ろには、オムツをかえてくれた
こともあったのだろう。そんな
ことを考えたら、入ればをあら
うことをきたないからやりたく
ないと思った自分はずかしく
なった。それより、母に聞こえ
ないふりをしてしまったことが、
どんなにいけないことだった
か。

「ばあちゃん。ばあちゃん。」
わたしがなんでも耳もとで声を
かけるけど、ばあちゃんは目を
とじたままだ。すると、そこへ
入ればをあらいおわった母が帰
ってきて、
「ばあちゃん、れいなが来た

よ。」
と声をかけると、うつすら目を
開けて、
「れいなか。」

と言った。わたしは、うれしくて、
「お母さん、聞いた。れいなっ
て言ったよ。」

と母の顔を見ると、母の目には、
なみだがたまっていた。そんな
すがたを見たら、わたしもなみ
だがあふれてきた。ばあちゃん
が気づいてくれたうれしさと、
母のなみだと、そして、自分の
はずかしかったいどにせんとな
みだがながれてきたのだ。

それからわたしは、自分でで
きることは何かないかと考えた。
病室のゴミをひろったり、お茶
をいれたり、かみをとかしたり、
つめをさったり・・・そして、
入ればをあらったり。

これからは、わたしにできる
ことはなんでもやりたいと思う。
だって、わたしにとって大切な
大切な、大好きなやさしいばあ
ちゃんのエがおが見たいから。

原文のまま掲載しております

サマーボランティアを通して



志布志市立
松山中学校 三年
上村真由さん

私がサマーボランティアに参加するのは今年で三度目です。私がこのボランティアに参加しようと思った理由は、福祉の仕事に興味を持ったからです。ボランティアをするところは特別養護老人ホームです。三度目といてもまだまだ慣れません。お年寄りの方と話をすることもろくにできません。私はこれでボランティアとして職員の方々の手伝いができるのかと思いましたが、

まず室内を案内してもらおうと特別養護老人ホームなのでお年寄りの利用者の方々のために全てとっていいほど設備が整

っていました。このサマーボランティア体験で行ったことはいろいろありました。離床、移動、食事等の介護、入浴介助、利用者との交流です。車イスの移動などは意外とスムーズにできました。食事の介助は、自分で食べられない人のために口に運んであげます。食べ物もいろいろありました。かむことの難しい人には、全部をミキサーにかけて食べやすく小さくします。食事介助ではおいしく食べていただくというれしかったです。入浴の手伝いは、入浴後の水分補給と髪の毛をドライヤーで乾かしてあげる手伝いでした。みなさ

んさっぱりしてお風呂から出て来てとても気持ちよさそうでした。久しぶりのお風呂だからかなと思います。老人ホームでは、一日おき順番に数十人しか入れません。そしてお風呂上がりに飲むポカリも飲み終わってもらえてうれしかったです。

私が一番難しかったのは利用者との交流です。利用者の方は耳の遠い人が多いです。この時は、職員の方々にもお世話になりました。

職員の方が話をすることがきつかけとなり自慢の歌や、昔の話などをたくさん聞かせてもらいました。

このサマーボランティア体験活動を通して介護福祉の仕事は体力を使い、夜間の仕事もある、とても大変な仕事だと感じました。

この仕事を全部手伝ったわけではありません。まだ私たちがした他に、シーツ等の交換、オムツ交換、洗濯などを毎日やっていると思うとても体力を使い、大変なことだと感じます。

私たちがこの体験活動でしたことは一部です。食事を作る人も一日六十人ほどいる人の分を作らなくてはなりません。とてもきついです。ずっと急いで走ったり、介護したりのくり返します。イスにすわっているひまなんでありません。でもこれが仕事です。

自分がなりたい、人を助けてあげたいと思っただけの仕事だと思えます。だから職員の方々も笑顔なんだと思います。この三度目の体験活動を無駄にしないように、人に優しくすることや、困っている人がいたら助けてあげるなど心がけて毎日を通じていき、普段の人間関係で、言葉遣い、人との接し方に気をつけることを目標にこれから役立てていきたいと思えます。つかれたけど勉強になったサマーボランティア体験学習でした。

原文のまま掲載しております

第二部 ボランティアまつり



特産品販売風景

十月二十七日(土) 志布志市文化会館で、午前中の福祉大会に引き続き、午後より第二部・ボランティアまつりを開催しました。

当日は福祉大会を終えると同時にボランティアまつりへの繋ぎ役として、松山町のボランティアの方々が「チャリティバザー」を開店。そして志布志市地域女性連絡協議会志布志町支部が「うどんコーナー」を開店。NPOの地域防災連絡協議会のAED体験コーナーでは、県の防災センター職員との協力でAED体験実施と、それぞれの催しを開催しました。

午後の部が開幕し、自然を守り育てるボランティア活動をしている、志布志町の「前川清流会」と、子



AED体験

供から高齢者を対象として読み聞かせのボランティア活動をしている、松山町の「ピッコロ」による活動事例発表がありました。そして、舞踊でボランティア活動をされておられる志布志町の五社中の団体が、それぞれに各一曲ずつ華やかに舞いを披露されました。

館内では、各ボランティア団体によるスタンプリリー(ゲーム・福祉体験・展小・試食)や、福祉施設等(もっこく・夢しずく工房・更生保護女性会)による特産品販売や各種相談コーナー、日赤の非常食炊き出しなど盛り沢山のコーナーを設けました。後半の行事では、大道芸人ジャグラーの東山祐貴さん(専門学校生)が中国コマを操る芸を披露してくださり、鮮やかな手さばきに観客の目を釘付けにしていました。ボランティアまつりの最後は、有明町のボランティアなかよしによる「ミニミニサロン」を元気のある楽しい寸劇を交え、会場の方々と一緒にリズム体操や歌を唄い会場を盛り上げました。

来年度は、もっと多くの市民の皆様が来場していただけたらと思います。



志布志町舞踊ボランティア

平成十九年度 志布志市金婚式開催

十一月二十一日(水)、平成十九年度志布志市金婚式がボルベリアダグりで開催されました。金婚を迎えられたご夫婦は市内では百三十一組で、そのうち八十八組がご出席されました。

まず雅楽の奏でる中、神前にておごそかにお二人揃ってお神酒を受けられ、その後記念撮影をされました。祝賀会では、主催者を代表して、

本田修一市長・社会福祉協議会会長が金婚を祝い、ますますの長寿を願うよう挨拶をされ、各町参加者より久木井和昭・洋子ご夫妻(有明町)、岩田瑞穂・マキ子ご夫妻(志布志町)、松原武文・ツヤ子ご夫妻(松山町)が代表で祝詞と記念品を受けとられました。



お神酒の席にて

その後、谷口松生議会議長の来賓祝辞、蔵園修文福祉部長の乾杯の音頭で祝宴が始まりました。祝宴では、祝儀の舞・舞踊を春日流寿友会の皆様披露され、また、愛ゆみ幼稚園、おおぞら保育園の園児達の見事な太鼓演奏や踊りに加え、

太鼓の音に負けない程の元気な声でお祝いして、参加者はとても感激していました。



園児と一緒におはら節

その後は結婚五十年間の夫婦の思いがこめられたメッセージが紹介されたり、カラオケや踊りも多数あり、大いに盛り上がりしました。参加者からは、「来て良かった。元気がでた。また明日から農作業がでくらしい。あいがとな。」と言っていたいたり、たくさんのありがたうという言葉があり、皆様にとって良き思い出の日となったのではないかと思います。金婚式を迎えられた皆様、いつまでもご夫婦仲良くお元気で過ごして下さい。



夫婦揃ってカラオケ